

# 発見! 熊野町の「エエ」ところ。 シリーズ 第3弾

全国各地にある名所や名物。もちろん熊野町にもたくさんあります。そんな町内に埋もれた、さまざまなモノ・場所などの「エエところ」を紹介するコーナーです。今回は「川角地区」からのレポートです。

## 「忘れがたきふるさと」をもう一度!

川角地区の一角にある「貴船神社」。その境内の一角には熱い思いを持った人たちが集まる場所がある。

境内敷地内にある川角自治会館の隅に煙突のついたドラム缶のような代物。害



これ、炭を作るカマである。炭と一口に言っても主体は竹炭。ここで竹炭を作っておられるのは川角地区にお住まいの首藤さん。社会福祉協議会が行っている事業である川角ミニ・デイホームの代表を務めている方でもある。ミニ・デイホームといえば、他の地区では女性が主体で活動しているが、ここでは男性も多く参加している。「なんと川角を活気付かせたい。川角を地区みんなの忘れられないふるさとにしたい。」そんな自治会長をはじめとした「元(?)青年団」たちの思いが集まり、うわさが人を呼び、活動は次第に輪を広げ、毎週火曜日にはミニデイが無くなり、境内の清掃をかねた竹炭づくりを行うまでになった。いま、「清掃をかねた」と書いたが、竹炭の原材料の「竹」は、境内にうっそうと生え、ともすれば全域



窯に竹を入れる首藤さん

にはびこりそうであったものを伐採して活用している。おかげで、貴船神社の境内は、かつての明るさと広さを取り戻したように見える。またそれだけでなく、町内の筆屋から不良となった筆軸を譲り受け、マドラーや消臭袋などを作成し、ミニデイ女性陣も力を合わせ、昨年にはリサイクルフェアに商品として出品した。やがては、ここで作成した竹炭を竹炭商品として、販売展開することもできるようになれば、この思いも密かに持っている。しかし、ここにいたるまでには、県北の吉田町などを現地視察し、炭窯の改良を行うなど一年半にわたる研究と努力が行われている。2作目の窯で出来上がる竹炭の成功率は90%以上。開始当初の60%程度から大きく進歩した。あとは試行錯誤で技術を高めていくだけである。



竹炭作りで必要な竹を、境内のモノでまかない、広くなった境内で地区の祭りなど、さまざまな催しが行われる。それが川角の活性化にもつながっていく。竹炭作りを通して一石二鳥、いや三鳥にもなる連鎖が何とも頼もしい。ここ川角地区は、貴船神社が、いま、いちばん熱い。



川角ミニ・デイホームのみなさん